

看護ひろしま

広島県看護協会報

2024
November
No.258



患者さんの生き方・意思を尊重した看護をめざして ～公立みつぎ総合病院～

命を守れ! ～災害支援ナース活動～

看護の動き最前線

看護の出前授業

ふれあい看護体験

地域で暮らしを支える看護職
～みやこ訪問看護ステーション

特定行為研修了者の活動
訪問看護ステーションでの実践活動

【社会経済福祉委員会コーナー】
職員による患者虐待について
看護補助者の人材確保

【保健師職能委員会コーナー】
県内の新任保健師集まれ!

【助産師コーナー】
乳房ケアの基本と実践

【看護師コーナー】
進学的一步をふみ出してみませんか

【研修会レポート】
看護師が行えるグリーフケア

支部活動報告～広島東支部、呉支部
広報委員のおすすめキャンプ飯

【Information】
文献複写サービスのご案内
2025年度 認定看護管理者教育課程
受講者募集のお知らせ

広島県看護協会HPIは
こちらから



広島県かんどちゃん



Hiroshima Nursing Association
広島県看護協会
会員数/合計19,479人
(令和6年11月1日現在)

患者さんの生き方・意思を尊重した看護をめざして

公立みつぎ総合病院 緩和ケア病棟 看護師長 橋高 智子



ベランダから



お花見



抹茶サービス

公立みつぎ総合病院は尾道市北部の中山間地域にあり、周辺5市1町、人口6万人を診療圏とする「地域包括ケアシステム」発祥の病院です。急性期一般病棟、回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病棟、緩和ケア病棟を有し、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、訪問看護ステーションなども併設しています。

当院の緩和ケア病棟は運営開始から23年目を迎えたベッド数6床の小さな病棟です。入院患者さんは高齢の方が多く、癌による症状だけでなく基礎疾患や加齢に伴う認知機能の低下など様々な症状を併せ持っています。私達スタッフは、「患者さんの生き方や意思を尊重したケアの実践」を病棟理念に掲げ、患者さんがその人らしく穏やかな時を過ごせるよう心がけています。

緩和ケア病棟と聞くと人生の最期を迎える場所と考える方も多いと思

いますが、「症状が緩和すれば自宅で過ごしたい」と願う患者さんの思いを尊重し、訪問看護ステーションや在宅部門のスタッフと連携して、在宅生活へ移行できるよう準備を整え退院の支援をすることもあります。

患者さんの病状の変化に戸惑いや不安を感じることもありますが、多職種カンファレンスでその患者さんに必要なケアについて話し合い、関わるスタッフが同じ方向を向いてケアするよう努めています。

また、一般的に入院生活は単調になりがちですが、少しでも楽しみや癒しを感じてもらうために、医師、音楽療法士、リハビリスタッフ、社会福祉士、公認心理師、ボランティアの方々と共に季節のイベントを開催しています。日常生活では垣間

見ることができない患者さんの姿を目にすることがあり、私達にとっても喜びを感じる時間です。

コロナが5類になったとはいえ、まだ油断のできない状況であり、感染予防のために希望に沿えないこともあります。その中で出来ることを一つ一つ多職種で考えながら、これからも患者さんにご家族に寄り添ったケアを目指します。



夏祭り

今年は「業務従事者届」の年です

業務に従事している看護職員（保健師、助産師、看護師、准看護師）は、2年ごとに、12月31日現在における氏名・住所・その他厚生労働省令で定める事項を届け出ることが、保健師助産師看護師法で義務付けられており（罰則規程あり）、今年は、その届出を行う年です。従事している医療機関等から案内がありますので、期限内に届出をお願いします。

また、令和4年からオンラインによる届出が開始されており、令和6年からは、【原則オンライン届出】としていますので、ご協力をお願いします。

なお、業務従事者届での「記入誤りの多い項目」は、「特定行為研修の修了の有無」となっています。

該当する方は、特定行為研修修了証を確認して、正しく入力をしていただくようお願いします。

オンライン届出のメリット

オンラインで入力することで、届出内容を次回に引き継ぐことができるので、次回以降の入力が簡便になります。

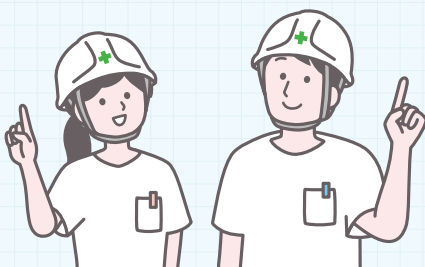
また、医療機関においては、紙媒体の配布・回収・提出等の手間を省くことができます。



「災害支援ナース」の仕組みが変わりました

令和6年4月1日から、災害支援ナースに関する仕組みが変わりました。

これは、「医療法」と「感染症法」が改正され、令和6年4月1日から施行されたことによります。改正法の施行前までは、日本看護協会及び県看護協会において、災害発生時の看護ニーズに迅速に対応できるよう、災害支援ナースの養成・派遣を行っていただいていた。



改正法の施行後の主な変更点は、次のとおりです。

- ◆「災害時の派遣」に加えて、「新興感染症発生・まん延時の派遣」にも対応可能となった。
- ◆「災害・感染症医療業務従事者」として法的に位置付けられた。（←DMATやDPATと同じ）
- ◆養成や登録は、国（厚生労働省）により実施されることとなった。

広島県看護協会では、災害支援ナース養成研修を行っておりますので、積極的・計画的な受講を推進していただくよう、お願いいたします。

訃報



長年にわたり本会名誉会員として、協会の発展に多大なご貢献をいただきました 玉川スエコ 様（享年99歳）が、令和6年7月29日にご逝去されました。

ここに心から哀悼の意を表し、謹んでお悔やみ申し上げます。

命を守れ!



～災害支援ナース活動～

声掛けからの気づき

医療法人社団生和会 たかの橋中央病院 谷増 えり

私は、能登半島地震で初めて派遣依頼を受け災害支援ナースの活動を行いました。派遣先は輪島市や珠洲市など甚大な被害に遭われた地域からの1.5次避難場所として開設された所で、1日200名余りの方々が介護度により2フロアに分かれて避難されていました。私が携わったフロアでの主な活動内容は、シャワー浴が予定されている方の検温や内服管理、褥瘡処置、急変対応など多岐にわたりました。活動を通し言葉の選択の重要性を特に感じました。私自身は身体や避難所での生活に対し『お困りのことはないですか?』と声を掛けましたが、返って来た言葉は『今後の事、家がない事に困っています』でした。震災での喪失感も大きく、気持ちを汲み取りながらのコミュニケーションを取ることが大切だと感じました。帰還し当院で行った報告会后、多くの看護師やメディカルの方が支援活動に関心を持っておられたので経験を伝えていきたいです。



職場での伝達講習



職場でのカンファレンスの様子

百聞は一見にしかず、現場に行かなきゃ

広島医療生活協同組合 広島共立病院 林 美穂

令和6年能登半島地震を、ニュースで知り、1月中旬に、広島県看護協会より石川県支援の要請がありました。不安と恐怖を感じていましたが、自分で何か手伝えなかつたかと思いつきました。1月24日、石川県小松総合体育館(1.5次避難所)に到着し、予想はしていましたが、避難されている方々は、70～80代の高齢者ばかりでした。被災者の方々は住みなれた地域(土地)を離れたくないという思いがあり、災害から日常生活を取り戻すことの難しさを現地で目の当たりにしました。寒波のためヘリコプターが飛ばず、支援ができることも限られていました。4日間の派遣でもっと何かできなかったのか焦る感情もあり、力不足や無力感を痛感しました。今できることは何か、看護の視点で考え行動し、一人一人に寄り添い、見守ることの大切さを学ぶ貴重な体験となりました。災害支援終了後、自職場で活動報告を実施しました。一人でも多くの看護師が災害支援に興味を持てる場になればと思い、研修での学びを加えて、意見交流しました。



前任者から申し送りを受けているところ



活動中の詰め所

訪問看護ステーションでの実践活動

～特定行為研修修了者の実情と課題～

医療法人厚生堂 長崎病院 訪問看護ステーションながさき 主任 平本 愛

今後更に超高齢社会を迎え、増加していく在宅療養を支えるために患者の状態に応じたタイムリーな医療ケアの提供がしたいと考え、在宅ケア認定看護師を目指しました。令和3年度に新設された認定学校在籍中に特定行為4行為(在宅・慢性期領域パッケージ)を修了し、病院併設の訪問看護ステーションに就職し現在に至ります。

認定試験の合格は令和4年12月で、翌年1月から活動をスタートさせました。在宅領域での特定行為活動は全国的に初めての取り組みだったため、中国四国厚生局へ問い合わせ指導を受け、自身の存在と特定行為を認識してもらうためのポスターや同意書を作成し、特定行為の過程をマニュアル化することから取りかかりました。その後、在宅医へ挨拶回りを行いました。特定行為を含めた訪問依頼は増えず、病院併設の強みを活かし病院での特定行為を実践しています。

病棟での経験から、特定行為には個別性が必要だと実感しました。例えば、左上方へ頸部拘縮した患者へ

の気管カニューレ交換では、自分の立ち位置や挿入角度の工夫で苦痛を最小限にすることができます。交換前後の咳嗽反射時間や顔面紅潮などから苦痛を判断し、状態に応じて手技を改善し、患者にとって安楽な状況となるようにしています。実践と振り返りを積み重ねることにより質の高い特定行為になると考えます。

一方、気管カニューレ交換と胃瘻交換のみの実践であることや、在宅領域での特定行為が増えないのが課題です。病棟から在宅療養となる患者さんを自らピックアップし、医師へ働きかけると共に、実績をあげ、在宅医師への理解を得てスムーズな在宅療養に繋げていきたいと考えます。

特定行為の経験を積みながら、医師及び療養者・家族からの信頼を得ること、自分から積極的に多職種に働きかけ連携を図ること、そして、状態に応じた迅速かつタイムリーな対応と共に、療養者・家族に寄り添った治療と生活の両面をサポートする存在でありたいと思います。



特定行為(気管カニューレの交換)の実際 訪問看護ステーションながさきの外観



訪問看護ステーションながさきのスタッフ一同



特定行為に関するお知らせポスター

地域で暮らしを
支える看護職



「家がみやこ」 自宅で暮らし続ける ことができるように

みやこ訪問看護ステーション 管理者 能島 京子



当ステーションは、広島市南区に令和6年5月に新規開設いたしました。

職員は、30代から70代で、常勤の他、働きやすい勤務形態をとっています。急性期病院での看護や脳疾患の発症直後からリハビリ期、認知症を含めた高齢者看護、長年多くの疾患を看てきた看護師や管理職経験者など幅広いスタッフが在籍しています。

私自身が食べることが好きであり、NSTとしても活動をしていました。栄養管理だけではなく口から食べ続けられることを生きる喜びであるととらえています。効果的な嚥下訓練の継続と評価を行うために言語聴覚士も在籍しています。

広島市中区、東区、西区、南区から訪問看護の依頼をいただき似島への定期訪問も行っています。

島独特の穏やかな時間が流れています。島民の皆さまは、高齢化や家族が島外へ出てしまい、高齢のご夫

婦やお一人暮らしの方が多く、島での暮らしを大切にされ、共に助け合い協力されています。

似島だけでなく広島市内で暮らしている方々も、核家族が多く老老介護で頑張っておられる方が多くいらっしゃいます。たとえ老老介護に疲れたとしても子どもや親戚の多い地域への住み替えを行い、支援をしてもらうことは、容易にできることではありません。

当ステーションは自宅で暮らし続けることができる『家がみやこ』となるようにという思いで名づけました。病気や障害によって、暮らしにくさが出てきたとしても、訪問看護を含め社会サービスを適切に利用することでより居心地の良い場所にしていくことができると確信しています。今後は看護スタッフの増員も行い、利用者そのご家族のご意向を確認しながら、利用者の「しあわせ」は何かを常に考えながら他事業所と協働し、安心して暮らせるように支えていきたいと思ひます。

第20回 ヘルシー・ソサエティ賞 受賞

医療・看護・介護従事者部門
森山 美知子 様

(広島大学大学院医系科学研究科成人看護開発学 教授)



みんなで
考えよう

ふれあい看護体験

将来の夢につながる ことを願って



公立学校共済組合 中国中央病院
副看護部長
西井 育子

今年度は8月8日に開催し、高校生19名が参加しました。コロナ禍での開催は、「胸骨圧迫」や「ガウンテクニク」などの体験を講堂で実施していましたが、短時間でも現場で働く看護師の姿を見ることができ、患者さんと対面することが参加者の将来につながればと思います。昨年度から病棟体験を再開しました。看護部長から病院の概要について説明後、病棟で看護師と一緒に検温、患者さんへの対応、実際に患者さんと話をするなどの体験をしました。高校生からは「どんな時も笑顔でいる看護師さんはすごいと思った。憧れました」「患者さん一人一人に対する対応が丁寧ですごかった」「普段見ることができない点滴準備室や無菌室に入ることができた。この体験で看護師になりたいという気持ちが強くなった」などの感想が聞かれました。また、当院で生まれたという高校生ととりあげた助産師との嬉しい再会もありました。数年後一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。



看護師と一緒に検温へGo!



とりあげてくれた助産師との再会



病院長、看護部長と一緒に集合写真 緊張の面持ち

みんなで
考えよう

看護の出前授業

いのちの大切さ、 ここからだ



広島県立安西高等学校
養護教諭
森田 由美子

「いのちの大切さ、思春期のここからだ」と題して全校生徒170名を対象に、広島赤十字・原爆病院の助産師・看護師の方による「看護の出前授業」を実施しました。看護師・助産師の方が制服で授業をされ、生徒はとても興味を持って参加していました。命の誕生の仕組み、性感染症、男女の気持ちの違い、デートDV、育児の様子について、写真や動画で説明していただきました。妊婦体験ジャケットを着用させてもらい、日ごろできない体験ができました。胎児が成長していく様子に、「命の神秘に感動した」という生徒が多くいました。また、親への感謝や他者への思いやりを持つきっかけになったようでした。育児の大変さや責任、性感染症の深刻さを学び、自らの性行動を選択していく時に大切なことは何かについて、それぞれ自分のこととして考えている様子がかがえました。心身ともに多感な高校生の時期に、専門職の方から貴重な授業をいただき、感謝しています。



妊婦体験



授業の様子

リスクマネジャー
意見交換会

職員による患者虐待について ～法律から組織対応まで～

社会経済福祉委員会
宇野 久美
(地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立広島市民病院)



前原淑恵先生

7月18日、第1回リスクマネジャー意見交換会を開催しました。広島大学ハラスメント相談

組織内で周知しておくこと等、各施設で取り組んでいく内容について示唆を得ました。

後半の活発な意見交換のなかで虐待案件の発生時は、事実関係を正確に把握し、対応することが重要で

あると共有ができました。そして職員のメンタルヘルス対策や患者虐待について組織として対応することへの必要性など、この学びを今後に活かしていこうと思います。

室の弁護士、前原淑恵先生から、「職員による患者虐待」について、過去の事例を交え、虐待防止に向けた取り組みについてご講演いただきました。

虐待に関連する法律から、虐待防止措置の義務付けや、精神科病院における虐待防止措置と体制整備についてのお話がありました。そのため、マニュアル整備や職員研修の実施、虐待相談窓口の設置と対応、関係機関への通報等が適切に行えるための



グループワークの様子

看護補助者の人材確保 ～ベトナムからの技能実習生を受け入れて～

医療法人 ピーアイエーナカムラ病院
介護医療院ひいろ
看護部長
撰 敬子

医療の高度化・複雑化に伴い看護職の業務量が増大する一方で、看護職と看護補助者の人材不足が深刻化しています。看護師が専門性の高い看護を実施していくためには、就業環境改善のため看護補助者の外国人人材確保が必要だと考えました。外国人活用セミナーに参加し2017年11月看護部長らが直接現地に赴き面接を行い、私たちが求める高齢者に優しく志の高い技能実習生の人材確保が始まりました。

11名です。そのうち、介護福祉士1名、特定技能1号取得者が3名います。

入職後も院内で1時間の日本語学習時間を設けています。テキストで学ぶより、日本人とのコミュニケーションが一番の学びになっており、業務中は日本語で会話するため、数週間ほ

どで日本語が上達しています。彼らが片言でも丁寧な日本語で、懸命に意思を伝え介護する姿は患者さんから慕われ、笑顔で真面目に仕事に取り組む姿勢に、良い刺激を受けています。これからも国境を越えた看護、介護を共に実践していきたいと考えます。

2024年8月現在法人に在籍する技能実習生は26名で、平均年齢22歳、男性15名、女性



音楽にあわせてレクリエーション



技能実習生の皆さん(ベトナム)

保健師職能委員会コーナー

保健師職能
研究会

県内の新任期保健師集まれ！ ～横のつながりをつくらう～

保健師職能委員会
中 保子
(広島県東部保健所)

保健師職能委員会では、入職3年目までの保健師を対象に、「元気で働き続けるためのヒントをみんなで見つけよう」をテーマに保健師交流会を開催しました。

手作りの名刺交換から始まり、少人数でのワールドカフェ方式でしっかりと交流を図っていただき、終始和

やかな雰囲気みなさんのフレッシュな笑顔がとても印象的でした。

参加者アンケートでは、「他の職場の保健師さんと悩みが一緒に嬉しかった」「自分がない、色々な考えを知れて良かった」等の感想がありました。

新任期保健師ならではの気持ちや

悩みを共有して、明日から元気に働き続けるためのヒントを持って帰られたように思います。

保健師職能委員会では、引き続き、職域を超えた保健師同士の横のつながりやお互いに学び育ち合える機会をつくっていきたいと思います。



名刺交換



ワールドカフェ

助産師コーナー

助産師職能
研究会

乳房ケアの基本と実践 ～助産師が行う母乳育児支援とは～

助産師職能委員会
木坂 恭子
(広島県厚生農業協同組合連合会
尾道総合病院)

8月24日 第1回助産師職能研究会を開催しました。れいこ助産院の田中美佳先生、Hana母乳育児相談の野崎悦子先生、MY助産院の高島麻季先生に講師をお願いしました。「退院後の母乳育児支援の現状から入院中の母子に必要なケアを考える」をテーマに、病的緊満、母乳不足感、吸着困難の事例を話されました。決してマイナスなイメージを与えず、母子が穏やかに幸せな気持ちで過ごせる様に支援されていました。ケアを通して、乳房や母の気持ちに変化していく様子がよく伝わりました。魔法のクチュクチュ、授乳姿勢など、演習で

さらに支援へのイメージが深まり、グループワークでもそれぞれの立場でできることを考え、活発な意見交換ができました。助産師47名の参加者からは、「セルフケアできるように伝えたい」「お母さんと赤ちゃんが幸せな気持ちで授乳できるように関わりを大切にしたい」「明日からすぐに実践できそう」など満足な声をたくさんいただきました。



演習「乳房ケアの実践」

看護師コーナー

准看護師 研修会

進学の一歩を ふみ出してみませんか

看護師職能委員会
右近 清子
(広島大学病院)

7月6日に准看護師と准看護学生が看護師資格取得に向けた進学情報を得るための准看護師研修会が開催され、准看護師9名の方が参加されました。今年度の研修は、Web研修ではなく4年ぶりに対面形式で実施され、参加者同士の活発な意見交換が行われました。研修会では、広島県看護協会の黒瀬副会長が「これからの医療と看護への期待」について講演を行い、続いて広島県健康福祉局医療

介護基盤課の石田主査が「県内の准看護師課程卒業者の進学状況や修学資金」について説明されました。その後、庄原赤十字病院、寺岡記念病院、庄原市立西城市民病院に勤務している看護師3名の方が、進学して看護師資格を取得した体験談を発表しました。体験談では、看護職として長



期的に活躍するために、年齢を問わず進学することの意義についても語られました。参加者からは「進学への関心が高まった」「実習記録を見せてもらったことで、学生生活のイメージがついた」との感想が寄せられ、意見交換を通じて進学に対する理解がさらに深まる機会となりました。今回の研修が、参加者のキャリア形成の一助になればと思います。



研修会レポート

看護師が行えるグリーフケア

広報委員会
出田 房代
(地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院)



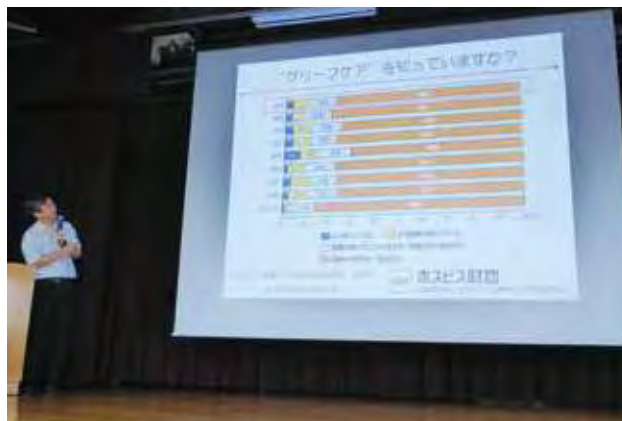
坂口幸弘先生

9月12日(木)関西学院大学の坂口幸弘先生をお招きして「悲しみと向き合い、生きるを支えるグリーフケア」

の研修会が開催されました。グリーフ(悲嘆)は、喪失による様々な心理的・身体的症状を含む情動的反応であり情動的な症候群ともいえ、喪失に対してごくごく自然なことです。しかし、死亡・罹患、自殺、遷延性悲嘆症のリスクが存在しており、リスクに応じた

グリーフケアの提供が求められます。医療者に求められるグリーフケアには、遺族に思いを寄せる、生前や看取り時の患者・家族ケア、故人の存在や思い出の共有、専門的な知識や経験に基づく助言、遺族のリスクアセスメント、治療機関や社会資源との連携、援助者自身のセルフケアなどがあることを学びました。生前から関わる機会のある看護師だからこそ行え

るケアもあります。グリーフ(悲嘆)およびグリーフケアに対する理解を深められ、私たちが行えるケアについて考える良い機会となりました。



広島東支部

ハラスメントの理解を深めよう

広島東支部長 松田 早苗 (広島市医師会運営・安芸市民病院)

9月14日に社会経済福祉研修として「医療・介護で巻き込まれやすいトラブル～ペイシャントハラスメントの対処方法・実践方法～」というテーマで前川秀雄弁護士をお招きし講義いただきました。現場における最近の話題から始まりハラスメントの概念化、法的責任、実際の困難事例検討、質疑応答が活発に行われました。36名の参加がありアンケートでは「録音や記録の考え方や重要性を再確認できた」「事例が具体的で参考になった」「現場で役立てたい」と高評価でした。今

後も東支部会員のニーズに応える研修を継続していこうと思います。



呉支部

お悩み解決！「まちの保健室」

呉支部長 西岡 初子 (独立行政法人国立病院機構 呉医療センター)

本年度より呉支部では「まちの保健室」のイベント型及び常設型の協力員として皮膚・排泄ケア認定看護師や摂食・嚥下障害看護認定看護師などに声をかけ参加

してもらっています。通常健康チェック(血圧測定・体脂肪測定)や物忘れチェック(認知症相談など)以外に、生活指導(排便指導・歯磨き指導など)も行うことで、昨年度よりも多くの方が来場されるようになりました。地域の方からは「普段聞けなかった便秘の悩みなど専門的な話が聞けてよかった」という感想をいただきました。今後も地域の方々との交流の場として、活気ある支部活動を目指します。



広報委員のおすすめ
「キャンプ飯」

広報委員会

望月 ひとみ

(地方独立行政法人広島市立病院機構
広島市立舟入市民病院)

看護師の仕事は多忙で、心身のリフレッシュが必要です。そんな時は、キャンプで自然に囲まれながらリラックスすることが一番。キャンプの楽しみと言えば、美味しい「キャンプ飯」です。簡単に作れてみんなに愛される定番の「焼きそば」。野菜とお肉を鉄板で炒め、市販の焼きそばソースで味付けするだけで、手軽に美味しい一品が完成します。外で食べると、香ばしい香りがさらに食欲をそそります。忙しい毎日を忘れて、仲間と一緒に楽しむ焼きそばの味は、特別なひとときになること間違いなしです。野外の新鮮な空気とともに味わうと、日々の疲れも吹き飛び、心も体もリフレッシュできます。ぜひ、キャンプで焼きそばを満喫してください！



キャンプで作ったシンプルな焼きそばです



図書室だより

文献複写サービスのご案内

図書室の
PCで
文献検索が
できます。



- 図書室に所蔵あり、PCよりダウンロードが可能の場合は、その場で複写可能です。
- キャリナーズに登録されている方は「最新看護索引Web」にて必要な文献を選び取り寄せることができますのでご利用ください（有料）

ご利用いただける文献検索のためのデータベースはこちらです。



詳細は図書室〈082-296-5079〉までお問い合わせください。

看護生涯教育・研究センター 認定教育部からのご案内

2025年度 認定看護管理者教育課程 受講者募集のお知らせ

募集要項の冊子の配付はありません。
申込に関する詳細は、広島県看護協会ホームページをご覧ください。

教育課程名	ファーストレベル		セカンドレベル	サードレベル
	第1期	第2期		
開催期間	2025年4月～7月 (約20日間)	2025年11月 ～2026年1月 (約20日間)	2025年8月～12月 (約35日間)	2025年6月～12月 (約35日間)
定員	50名	50名	50名	25名
受講料 (税込)	会員	122,500円(税込)	168,750円(税込)	237,500円(税込)
	非会員	187,500円(税込)	262,500円(税込)	362,500円(税込)
修了証明料	10,000円(税込)			
募集期間	2024年11月5日(火) ～11月14日(木) 必着	2025年1月14日(火)～1月23日(木) 必着		
受験料(税込)	3,000円(税込)			
受講決定通知	2025年2月上旬、 個人宛 に受講の可否を文書で通知する。	2025年3月下旬、 個人宛 に受講の可否を文書で通知する。		

※ファーストレベルは第1期と第2期の募集期間が別ですのでご注意ください。
※各教育機関とも、土・日・祝日に研修が入ることがあります。

問い合わせ先 看護生涯教育・研究センター 認定教育部 TEL082-503-2382
E-mail nintei@nurse-hiroshima.or.jp
URL <https://www.nurse-hiroshima.or.jp>



食～ひろしまが育む風景～ 表紙の写真／バームクーヘン発祥地、似島

広島県広島市の似島は、バームクーヘン発祥の地として知られています。贈り物やお祝いごとの際に選ばれることも多いバームクーヘンは人気のお菓子となっています。輪切りにすると、木の年輪のような模様がきれいで、しっとりとした食感でとてもおいしく、私はつつい食べ過ぎてしまうスイーツのひとつです。休憩中に、職場のみんなとお菓子の箱を開けるときのワクワク感と、食べるときの「きれい」「おいしい」などみんなで楽しみながら笑顔で食べているときが、私のホッとするとときとなっています。おいしい物を食べてエネルギーを補給し、今日の仕事を頑張りたいです。(松浦 美帆子)

広島県看護協会報 看護ひろしま
11月号/258号
発行所 公益社団法人 広島県看護協会
〒730-0803
広島市中区広瀬北町9-2
TEL:082-293-3362
発行責任者 山本 恭子
編集 広報委員会
制作 有限会社パル